

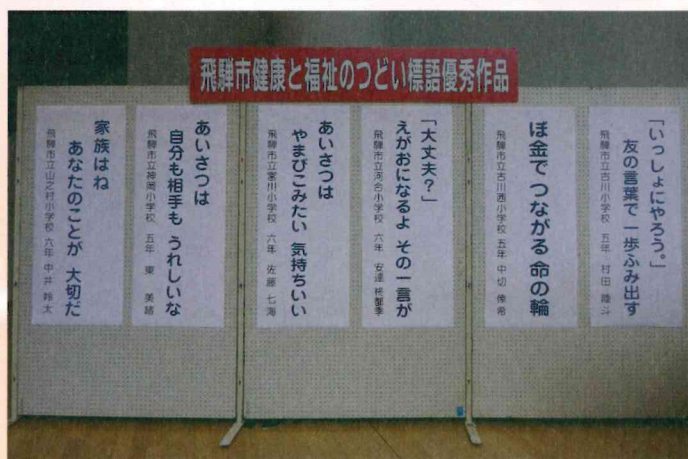
飛騨市社会福祉協議会

福祉協力校だより

平成30年12月18日発行



健康と福祉のつどいを
開催しました



福祉協力校とは？

飛騨市社会福祉協議会では、次世代の担い手である小学校・中学校・高等学校の児童・生徒がボランティア活動や、身近な福祉活動の中で、社会奉仕や社会連帯の精神を養い、家庭や地域で福祉の心を深めるような教育の実践を行うことを目的として、福祉協力校の指定をしています。当協議会では、福祉協力校へ助成金を交付し、活動の支援を行うと共に下記のような活動を当協議会と連携を取りながら実施しています。

具体的な活動は？

1 広報・啓発活動

- ❖ 講演会や展示会等の開催
- ❖ 各学校の福祉活動の紹介
- ❖ 体験作文、学校新聞等の作成や配布
- ❖ 福祉意見発表
- ❖ 福祉標語の募集

2 調査・研究活動

- ❖ 地域における福祉実態調査

3 体験学習を目的とした実践活動

- ❖ 社会福祉体験活動
(手話、点字、車いす体験など)

4 地域一般での訪問・交流体験活動

- ❖ 高齢者施設等への訪問、交流活動
- ❖ 暑中見舞い、年賀状等の送付
- ❖ 給食サービスボランティア活動
- ❖ 各種募金活動
- ❖ ベルマーク・エコキャップ収集活動



【福祉協力校一覧】

飛騨市立山之村小中学校・飛騨市立古川小学校・飛騨市立古川西小学校
 飛騨市立河合小学校・飛騨市立宮川小学校・飛騨市立神岡小学校
 飛騨市立古川中学校・飛騨市立神岡中学校
 岐阜県立吉城高等学校・岐阜県立飛騨神岡高等学校



福祉体験

活動の一環として、夏休みには、一人暮らし高齢者や高齢者世帯への給食サービスボランティア、福祉学習の中では、車いす体験、高齢者疑似体験などを実施しています。



平成30年度 福祉意見発表応募優秀作品

11月10日(土)、飛騨市文化交流センターで「飛騨市健康と福祉のつどい」を開催いたしました。市内小中学生の福祉意見発表・市内小学生の福祉標語の掲示を通して、健康の喜びや、地域福祉の重要性について、関心を深めることを目的に実施しております。

中学生の意見発表では、飛騨市の将来を担う若者の学校や家庭、将来についての意見や考えに来場者の皆さんは真剣に耳を傾けていました。



私は、古川中学校で美術部に所属しています。部活では絵を描くことはもちろんですが、一週間に一回体力作りを目的に、堤防を走っています。そんなある日、顧問の先生に「堤防走って辛い時でも、横通った人に挨拶できるといいな。もつと言え、遠くで畑仕事しとる人にも挨拶できると最高だよ。」と言われました。正直私はこれを聞いたとき、どうして一生懸命走っていて息がきれている



挨拶も福祉活動だと信じて

古川中学校三年 圓山 蓮奈

のに、わざわざ大きい声を出して挨拶をしなければならぬのだらう、と思いました。

私が挨拶の大切さについて考え始めたのはそれからです。まだ保育園に通っていた頃から当然のように出会った人に行っている挨拶ですが、なぜ挨拶をするのか考えたのはこれが初めてでした。

「なぜ挨拶が大切か」という問題に対して私なりに出した答えがあります。それは、挨拶は、地域の人などに関わり、よりよく幸せに生きるために必要不可欠であるものだ、ということです。見知らぬ人に挨拶をしたとき、返してもらえただけで私はとても嬉しくなります。また、その方が笑顔だったら尚更です。

そして、実際にそんな日々が続いているからこそ、自分は今幸せに生きることができているのだと

感じました。

そこで私は気付きました。「ああ、この嬉しさは、人助けやボランティア活動をしていた時の感情と同じだ」と。絶対やらなければならぬわけではないけど、やったら自分は役に立って嬉しい、してもらった人は、助けてもらって嬉しいと思います。

ところで、ボランティアはよく福祉活動の一つと言われますが、「福祉」とは何なのか、明確には分かっていません。そこで私は辞書を使って、「福」という字と「祉」という字の意味をそれぞれ調べてみました。どうやら、「福」は「しあわせ」、「祉」は「さいわい」という意味のようです。どちらも「幸福」を意味しています。つまり、「福祉」というのは「幸せ」に関係することなのだと思えます。一般的に福祉活動というと、お年寄りの方や障がいのある方をサポートしたり、困っている大人や子どもを手助けしたりすることを言うのかもしれませんが。私にはそれを毎日続けることは難しいです。

しかし、「挨拶」は、私にも毎日続けることができます。みんなのイメージする福祉活動のように大きなことではなく、本当に小さなことかもしれません。私が挨拶をすることで、誰かを少し「幸せ」にすることができるとも思えないのです。そして、返してももらえれば、私も幸せになれます。

もし挨拶というものがなかったら、地域の方との関わりはぐんと減り、自分の声に誰かが応えてくれる嬉しさにも気付かずに過ごしていたと思います。

今まで当然のように、でも深くは考えずにしていた挨拶ですが、「だから挨拶は大切なんだ」とつくづく思いました。だから、部活で堤防を走る時でも、「この挨拶で誰かを幸せにできるかも知れない」と思つて挨拶をしたいと思います。「挨拶すること」は本当に誰にでもできます。しかし、そんな誰にでもできることで、自分の周りに笑顔が増えるのです。だから、皆さんもぜひ周りの人に挨拶をしてください。挨拶も福祉活動だと信じて。



事故をなくすために

古川中学校三年 上窪 千賀

今年の四月、私は葬式に参加した。じいちゃんの葬式だった。しかし、この三ヶ月前、私は三ヶ月後に葬式に参加するなんて、全く思ってもいなかった。

じいちゃんは、昨年野菜や米をたくさん作っていた。だから、畑に行ったり、耕耘機を運んだり、ばあちゃんと一緒に買い物に行ったりと、車が手放せない生活を送っていた。私たち家族は、八十三歳という祖父の年齢を考えて、運転の仕方



や免許の返納について言ってきたが、頑固なじいちゃんは耳を貸さなかった。それどころか、「俺は運転が上手い」とさえ嘯き、運転を続けていた。

ところが、四月のある日、運転している途中で意識を失い、交差点で停車していた車に追突したことが原因で、亡くなってしまったのだ。だから、ぶつかった後でも、じいちゃんの足は、アクセルを踏みつばなしだったらしい。じいちゃんは、頑固なところはあったが、私たち孫には優しく、旅行に出かけてはお土産を買ってくれたり、正月や誕生日にはお小遣いをくれたりした。また、自分たちが作った野菜や米を、うれしそうに持ってきてくれるもしていたのだ。そんなじいちゃんが、元氣に出かけていったのに、物言わぬ人となって私たちの下に帰ってきたのだ。

私は、事故は絶対にあつてはならないと思う。一人ひとりが気をつければ防ぐことができるからだ。しかし、じいちゃんのように事故が原因で亡くなる人はたくさんいる。特に高齢者の事故は、防ぐことが難しいと言われている。

それは、じいちゃんのように自分の運転技術を過信したりする人が多かつたり、高齢者にありがちな、突然体調が変化することがあるからだ。だから、それらを防ぐためには、二年ごとにある免許の更新だけではなく、一年に一回は実際に運転するテストを受けさせたり、健康診断を定期的を受けさせてはどうだろうか。反射神経が鈍つていたり、突然の発作を起こして意識を失う可能性のある高齢者には、免許の更新をさせず、法的に失効させてはどうだろうか。私たち家族が、いくら言っても聞かなかつたじいちゃんのように、家族任せでは、事故は無くならないだろう。

この前、学校で交通安全についての講話があり、娘を交通事故で亡くされた方が来て下さった。十年

以上経った今も、涙を流しながら話をして下さった。朝、普段通りに家を出て、横断歩道で信号が変わるのを待っていただけなのに、暴走してきた車にはねられ、亡くなったのだという。

突然、事故で家族を失うのは、とても辛い。それは、事故は絶対に防ぐことができるから、後悔も必ず残るのだろう。あのとき、もっと遅く家を送り出しておけば、自転車で行かせておけば、などである。その方は、自らを守るためには、常に周囲の状況に気を配り、次に起こることを予測することが大切だ、とおっしゃっていた。

交通事故は、いつ起こってもおかしくない。昨年の交通事故の件数は約四十七万件で、負傷者は約五十八万人、死者は約三千七百人だったそうだ。毎年それだけの事故が起こっているということは、事故に遭った人だけでなく、その件数以上の家族や周りの人たちも、悲しい思いをしている、ということだ。

私は、交通事故で悲しい思いを

する人がいなくなつてほしい。だから、これからは、事故について、もっと多くの人に知ってもらうことが必要だと考える。なぜこの事故は起こったのかを、当事者や、環境、自動車など、どこに、どのような要因によるのかを、マスコミなどを通じて、広く知らせるのである。そうすれば、一人ひとりがしっかりと対策を立て、対峙することができるからである。

一方、最近、話題に上がることが多くなつてきている高齢者による事故は、家族の注意も必要だが、行政による配慮や組織作りによつて防ぐことができるだろう。まずは、家族が体調に配慮し、勇気を持つて

運転を止めることである。体調や反射神経、判断力などがすぐれなければ、運転を止めれば良いのである。また、高齢者が運転しなくても、日常生活が送れるように、巡回バスや福祉タクシーの整備、集落を巡回するコンビニや食料品店の設置なども、この飛騨地区には必要なことである。

このように、交通事故の原因はたくさんあるように、それらを防ぐ方法もたくさんあるのである。私たちにできる事は、自分を取り巻く環境や、自分の体調を確認して、できることから対策を立てていくことである。もう誰一人、事故によつて悲しむ人が無くなるように。



心と心をつなぐ ボランティア活動から学んだこと

神岡中学校三年 板倉 もえ

私はジュニアリーダーとして、こ

れまでたくさんさんの活動に参加してきました。その中でも、子どもキャンプのお手伝いをして、多くのこと

を学びました。

今年も、七月二十八、二十九日、子どもキャンプにジュニアリーダーとして参加し、たくさんさんの小学生

と知り合いました。今回のキャンプでは、草木染の体験をしました。

草木染とは、木の葉とハンカチなどの布を重ね、木槌でたたきこつて、木の葉の形や色を移すようにして行う染め物です。草木染は、小学生には少し難しかったこともあり、一人では出来ない子が何人かいました。分からないことを分からないと伝えられる子、「お姉ちゃん、教えて。」と自分から話しかけられる子もいますが、そんな子ばかりではありません。「できる？」と話しかけても、首を傾げるだけの子、何の反応もなく何もしないままの子もいます。そんなときは、まず私から話しかけました。やさし



く説明し、それでも分らないというときは、教えながら一緒にやってあげました。そうすることで、相手の小学生も笑顔になり、心を開いてくれて、お互いの距離を縮めることができました。この体験から、自分から関わろうとすることの大切さに気付くことができました。

逆に失敗したこともあります。ジュニアリーダーが担当するレクリエーションが終わり、ついでが抜けてだらけてしまいました。「休んでいてもいいですか？」などと言っていました。「あなたたち、何のために来たの？小学生を手伝うためでしょ！」と、大人の方に叱られました。そのとき、私はすぐ後悔しました。

ボランティアは、まず自分のことより相手のことを優先して行うことです。このボランティアは、自分がしたいと思つて決めたことです。自分が好きなことだけやるとか、疲れた時はしなくていいなどというものはありません。相手にとって必要なことを、責任をもって行い、相手に喜んでもらうことの意味

を、改めて考えることができました。

このジュニアリーダーの活動で学んだことは、日々の学校生活にもつながります。

私達三年生は、体育祭の取り組みでは、団リーダーとして団全体をまとめる活動をしました。応援合戦の流れやダンスの振り付け練習で、下級生に一对一で教える際、どう教えるといいか、相手のことを考えながらやりました。最初はうまくできなかつた子も、段々とうまくなりました。それから、私は団全体を見るようにしました。周りを意識的に見ていると、ポンポンが壊れて困っていること、そのことを自分から言いだせずにいることなどに、気付いて動くことができました。

また、生活全般で、積極的に話す気持ち芽生えてきました。私は、元々人前で話すことが苦手ですが、ジュニアリーダーとして小学生にゲームの仕方など説明するときには、はつきりした声で、わかりやすく、恥ずかしがらずに話さなくて

は相手に伝わりません。しかも、ゲーム自体がつまらなかつたら、楽しみません。どうしたら相手が喜んでくれるか、どうしたら楽しく盛り上がるかも、考えるようになりました。学校生活の中でも、考えて計画を立てることができるようになりました。

このように、ジュニアリーダーの取り組みを通して、私は「自分から声を出そうとする」「自分と相手の関係を築くように関わる」ことができるようになり、日常生活にも生かしています。

現代社会では、人と人の関わりが持ちにくくなっているそうです。例えば、混んだバスや電車の中で、高齢者や妊婦さん、小さな子供連れの方が立っていても、眠ったふりをして座り続けている若者もいると聞きました。気付かないふりをして席も譲れないなんて、人として恥ずかしいです。高齢者の方や妊婦さんの「立っているだけでも大変」なことに気付く人でありたいです。席を譲ることで、相手がすごく嬉しい気持ちになるだけでなく、自

分もすごくいい気持ちになります。ここでも、周りを見て行動に移すことが大切だと考えます。

現在、飛騨市ジュニアリーダーに所属している中高生は十名です。この活動に、もっと多くの人が興味関心をもつて、いつしよに活動してくれたらいいな、と思います。

私は、これからも、「まず自分から」「周りをよく見る」ことを大切に、人と積極的に関わり「心と心をつなぐ」関係づくりを目指して、生活していきたいです。



福祉標語優秀作品

「いつしよにやろう。」

友の言葉で 一步ふみ出す

飛騨市立古川小学校5年

村田陸斗

ぼ金で つながる 命の輪

飛騨市立古川西小学校5年

中切倅希

「大丈夫?」

えがおになるよ その一言が

飛騨市立河合小学校6年

安達柊都季

あいさつは やまびこみたい

気持ちいい

飛騨市立宮川小学校6年

佐藤七海

あいさつは 自分も相手も

うれしいな

飛騨市立神岡小学校5年

東 美緒

家族はね

あなたのことが 大切だ

飛騨市立山之村小学校6年

中井鈴太

各種出前講座

飛騨市社会福祉協議会では、福祉に関する出前講座を実施しています。各地域や学校などで福祉に関する講座を検討されていることがございましたら、一度飛騨市社会福祉協議会へご連絡ください。

また、福祉について学んでいただくための用具の貸出も行っております。お気軽にお問い合わせください。

■一般向け福祉出前講座の例

これまで行ってきた講座の一例をご紹介します。このほかにも、皆さんのご要望に併せた研修会の組み立てのお手伝いをいたします。

◎**地域の見守り活動について** 高齢社会を迎え、地域の見守り活動はより重要になってきています。住民の皆さんの意識向上・活動の進め方などをご説明いたします。

◎**成年後見制度とは** 成年後見制度とは何か? 私たちの生活でどのように活用できるのかをご説明いたします。

◎**地域や家庭内の防災について** ご自宅の家具などの配置を基に地震などの災害が発生した際の家庭内の被害を想定したり、皆さんの住む周辺地域でどのような被害が発生するのか平面図等を使いながらシミュレーションし、必要な対応策を考えていく研修会です。

◎**終活について考えよう** ご自身やご家族の終末期に有効な終活のための方法について学んでいただく研修会です。

◎**ボランティア活動について** ご自分の住む地域のボランティア活動として何ができるのか。どのような活動があるのかなど地域の事例をご紹介しますながら、ボランティア活動についての理解を深めていただく研修会です。